

平成26年度 公共事業事後評価調査

1. 事業説明シート(1)

(区分) 国補・県単

事業名 治水事業 [基幹河川改修事業 (国補)]		事業箇所 北杜市大泉町		地区名 泉川		事業主体 山梨県	
(1)事業着手年度 H3年度		(2)事業期間 H3年度~H21年度		(3)完了後経過年数 5年		(4)総事業費 1,795百万円	
(5)事業着手時点の課題・背景				(8)事業位置図等			
<p>北杜市大泉町から長坂町を流れる泉川の当該区間は、計画流量60m³/sに対し現況の流下能力は約20m³/sと30%程度の流下能力しかないことから、浸水被害が度々発生していた。</p> <p>このため、流下能力の拡大に重点をおいた河道拡幅を行い、治水安全度の向上を図り、氾濫による洪水被害の防止を目的とする。</p> <p>(被害実績) 昭和34年8月15日台風7号(床下浸水105戸) 昭和57年8月1日台風10号(床下浸水85戸) 昭和58年8月13日台風6号(床下浸水41戸)</p>							
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果							
<p>(事前評価未実施)</p> <p>主要目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水被害の防止 <p>副次目標</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>副次効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な緑地の提供 生態系空間の再生 							
(7)整備内容(目標達成の方法)							
<ul style="list-style-type: none"> 流下能力の向上 改修延長L=2,455m 護岸工L=2,455m 道路橋11橋 <p>流下能力 20m³/s 60m³/s 治水安全度 1/1.2 1/20</p>							

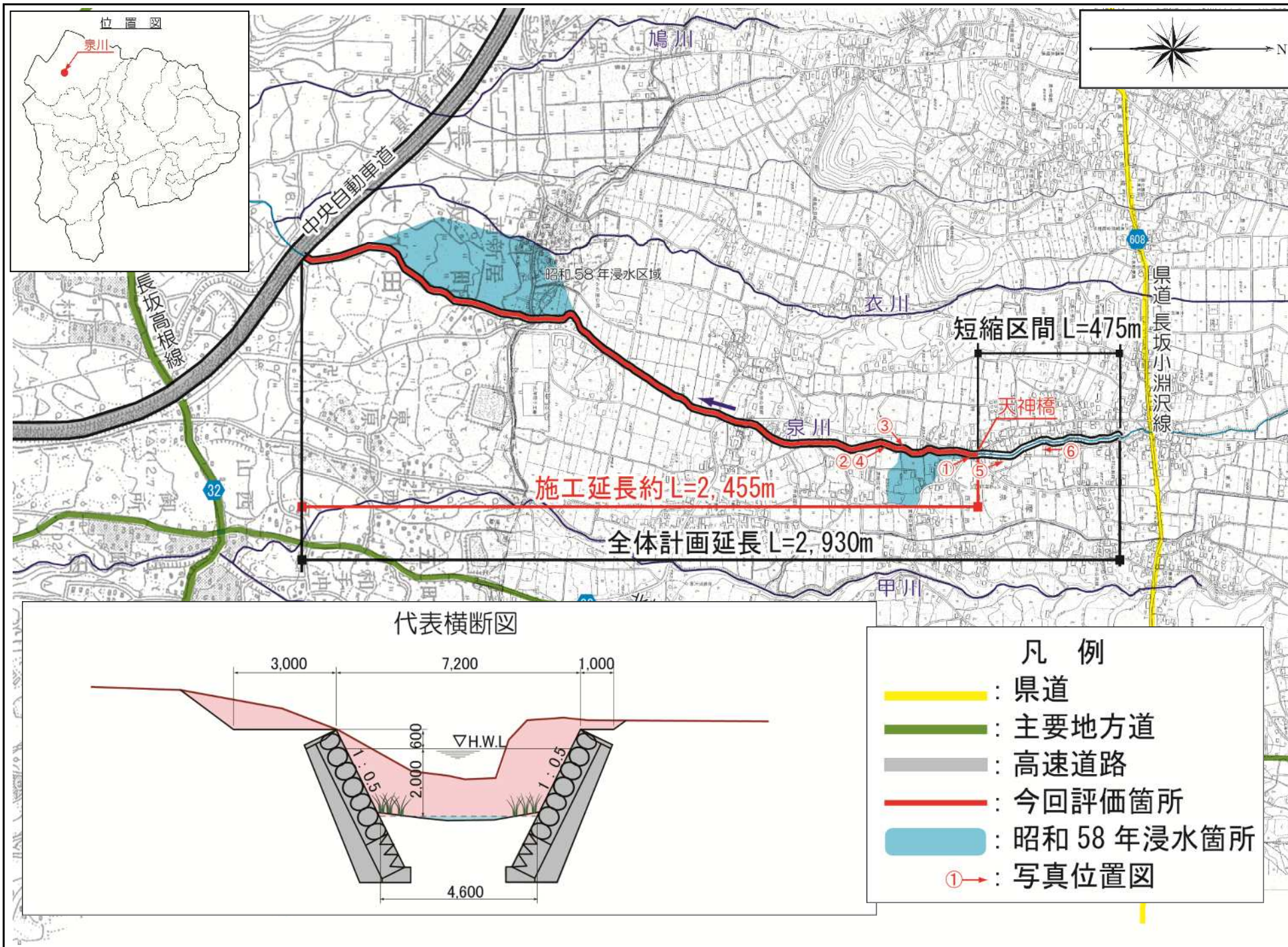
2. 評価シート(1)

<p>(1)事業貢献度 < (良) ・ 不良 ></p> <p>(理由) 事業着手以前は昭和34年8月台風7号(床下浸水105戸)昭和57年8月台風10号(床下浸水85戸)昭和58年8月台風6号(床下浸水41戸)等の浸水被害があったが、事業完了後の平成23年9月台風15号(葦崎観測所:時間最大雨量30^{mm}/hr 21日日雨量164^{mm})による豪雨では、流下能力が向上したことにより沿川には溢水等による浸水被害は発生せず、安全性の向上に大きく貢献している。</p> <p style="text-align: center;">主要目標 洪水被害の防止</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:30%;">着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過去の災害実績、事業の緊急度、災害発生危険度(評点法)</td> <td style="text-align: center;">21点 設定せず</td> <td style="text-align: center;">9点</td> </tr> <tr> <td>想定氾濫区域1haあたり被害軽減額</td> <td style="text-align: center;">4百万円 設定せず</td> <td style="text-align: center;">11百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害実績、緊急度、危険度については、21点から9点に減少している。 ・1haあたり被害軽減額は、着手時の4百万円を上回る11百万円となっている。 <p>副次目標 なし</p> <p>副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:80%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>身近な緑地の提供</td> <td>緑地の整備</td> </tr> <tr> <td>生態系空間の再生</td> <td>護岸に自然石を利用し、河床に巨石を配置する事により水生生物が生息し易い環境づくりと景観への配慮。 魚道の設置による魚類の移動経路の確保。</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他の事業効果の発現状況 ・なし</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	過去の災害実績、事業の緊急度、災害発生危険度(評点法)	21点 設定せず	9点	想定氾濫区域1haあたり被害軽減額	4百万円 設定せず	11百万円	項 目	内 容	身近な緑地の提供	緑地の整備	生態系空間の再生	護岸に自然石を利用し、河床に巨石を配置する事により水生生物が生息し易い環境づくりと景観への配慮。 魚道の設置による魚類の移動経路の確保。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 < (有) ・ 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:30%;">着手時点の計画</th> <th style="width:50%;">事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td style="text-align: center;">1,920百万円</td> <td style="text-align: center;">1,795百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td style="text-align: center;">H3～H21</td> <td style="text-align: center;">H3～H21</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td style="text-align: center;">2,104百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td style="text-align: center;">15,592百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td style="text-align: center;">8.05</td> </tr> </tbody> </table> <p>(要因変化の分析) 総事業費 全体計画区間の短縮による総事業費の減少</p> <p>天神橋より上流の未改修区間475mについては、流下能力が不足する箇所は局部的であることから維持修繕工事に対応することとしコスト縮減を図った。</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,920百万円	1,795百万円	工 期	H3～H21	H3～H21	経済効率性	費用	2,104百万円	便益	15,592百万円	B/C	8.05
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																														
過去の災害実績、事業の緊急度、災害発生危険度(評点法)	21点 設定せず	9点																														
想定氾濫区域1haあたり被害軽減額	4百万円 設定せず	11百万円																														
項 目	内 容																															
身近な緑地の提供	緑地の整備																															
生態系空間の再生	護岸に自然石を利用し、河床に巨石を配置する事により水生生物が生息し易い環境づくりと景観への配慮。 魚道の設置による魚類の移動経路の確保。																															
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																														
総事業費	1,920百万円	1,795百万円																														
工 期	H3～H21	H3～H21																														
経済効率性	費用	2,104百万円																														
	便益	15,592百万円																														
	B/C	8.05																														
<p>(3)事業実施による環境の変化 < (有) ・ 無 ></p> <p>自然環境への影響 ・護岸には自然石を用いて、河床部には変化を持たせるよう配慮した。また、河畔林を保持する等、自然に近い状態での整備を行った。</p> <p>生活・居住環境等への影響 ・なし</p> <p>環境保全対策の効果の発現状況(措置を講じた場合) ・なし</p>																																
<p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 < (有) ・ 無 ></p> <p>社会経済状況の変化 ・環境に対する意識の高まりを背景に、人々の憩える水辺空間の整備を実施した。</p> <p>関連計画・関連事業の状況の変化 ・天神橋より上流を局部的な維持修繕で対応することとしコスト縮減を図った。</p> <p>事業環境等の変化 ・なし</p>																																

評価シート(2)

<p>(5)今後の事後評価の必要性 < 有・<input checked="" type="radio"/>無 ></p>	<p>(7)同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 < <input checked="" type="radio"/>有・無 ></p>
<p>(理由) ・事業の目標は達成されていることから、今後の事後評価の必要性はないと思われる。</p> <p>「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：</p>	<p>(理由) ・河川事業の場合、沿川や流域の開発状況等を勘案して浸水被害等を防止するように効果的な一連区間の設定を行うため、事業区間や事業期間が長くなる傾向がある。</p> <p>(具体的反映策) ・中長期的な事業計画を持ちつつ、概ね10年程度で完了できる適切な工区を設定して、その工区ごとに事業評価を受けることにより、予算管理や時間管理を徹底していきたい。</p>
<p>(6)本事業における改善措置の必要性 < 有・<input checked="" type="radio"/>無 ></p>	<p>(8)事業評価手法の見直しの必要性 < 有・<input checked="" type="radio"/>無 ></p>
<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的反映策) ・なし</p> <p>(既の実施した改善策の内容と効果) ・なし</p>	<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的反映策) ・なし</p>
	<p>(9)その他特筆すべき事項 < 有・<input checked="" type="radio"/>無 ></p> <p>・なし</p>

3. 添付資料シート(1)





改修前 市道橋梁部



改修後 市道橋梁部



改修前 河川断面不足箇所



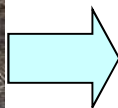
改修後 河川断面不足箇所

添付資料シート(3)

事業着手前・完成後の工事写真

写真

事業着手前(平成20年3月撮影)

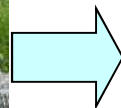


完成後(平成25年9月撮影)



写真

天神橋より下流 事業着手前(平成18年撮影)



天神橋より下流 完成後(平成25年9月撮影)



短縮区間写真

写真

改修不要区間(上流部)(平成26年5月撮影)



写真

改修不要区間(上流部)(平成26年5月撮影)

